神戸新聞 (第3種郵便物認可)

脳活性化の効果期待「臨床美術」

五感でつかみ作品制作

多彩な技法の90点展示

美術制作を通じて脳を活性化させる「臨床美術」の作品展が、丹波篠山市西古佐の丹波並木道中央公園で開かれている。サツマイモやフジ、恐竜などを題材に、さまざまな素材や技法で表現した90点が並ぶ。(秋山亮太)

臨床美術の多彩な作品が並ぶ展示会場=丹波並木道中央公園

丹波篠山

臨床美術は芸術療法の一つで、絵やオブジェなどを楽しみながら制作することで脳を刺激し、認知症予防や子どもの感性教育、ストレス緩和などへの効果が期待されている。同市では川崎昌代さん(67)=同市打坂=が教室「森のアートクラブ」を開くほか、高齢者施設や地域のサロンにも出向き、臨床美術の普及に取り組んでいる。

会場には、教室などの受講者や、川崎さん自身の作品を展示している。サツマイモを表現した作品は、黒っぽい紙を畑に見立て、土の中でイモが育っていく様子を思い浮かべながらオイルパステルで色を重ねた。竹串で塗った部分を削るなどした後、紙を切り抜いて仕上げており、制作のプロセスも面白い。

フジの絵は、実際の花をじっくり眺め、香りをかぐなど五感で感じ取ってから制作。藤棚を揺らす風を筆で描き、丸めた段ボールをはんこ代わりにして、スタンピングで花房を表現した。色とりどりの端切れや砕いた樹皮を貼り付けた恐竜のコラージュもあり、首が長かったり、鋭い歯を持っていたりと、制作者がそれぞれ思い描いた個性豊かな姿が並ぶ。

川崎さんは「臨床美術と聞くとハードルが高いように感じるかもしれないが、子どもからお年寄りまで幅広く楽しめる。多くの人に興味を持ってもらい、ぜひ体験してほしい」と話している。

26日まで。午前10時～午後5時(最終日は同3時まで)。川崎さんは毎月第1土曜、同市打坂の「げんき・げんきハウス」で教室を開いている。川崎さん☎090・9619・6602